

パーソナリティと循環器疾患死亡リスクの関連

Personality and mortality from ischemic heart disease and stroke.

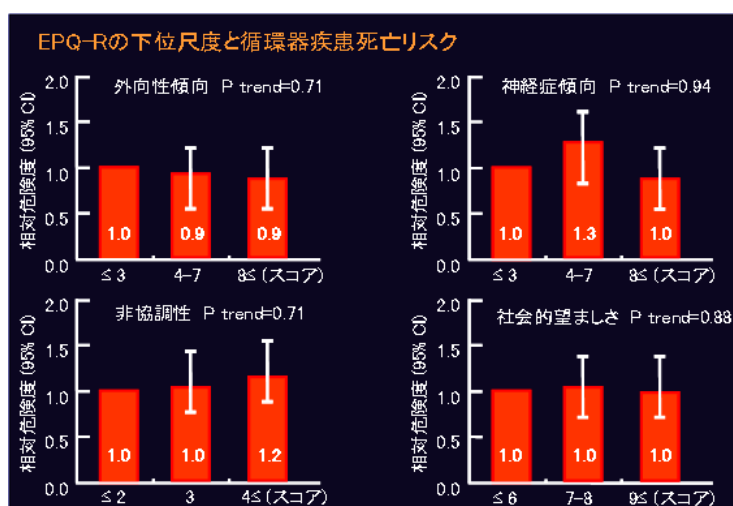
2005 年 Clinical and Experimental Hypertension 発表

パーソナリティと循環器疾患死亡リスクは関係なし

パーソナリティや情動などの心理的特徴が、これらの疾患を引き起こす可能性が注目されています。中でも、タイプAパーソナリティ（行動パターン）と冠動脈疾患の関連が見出され研究が行われてきました。その他のパーソナリティに関しても Eysenck らが開発したパーソナリティ指標と循環器疾患との関連が指摘されています。

その理由として、①外向的な者ではストレスに対する冠動脈系の反応が亢進する、②神経質な者ではストレスに対する血圧が亢進する、③非協調的な者ではストレスに対する心拍数が増大する等、パーソナリティと循環器系の反応が関連することが示されています。しかし、これらのパーソナリティが循環器疾患死亡リスクに影響するかどうかは未だ分かっていません。

本研究では、パーソナリティと循環器疾患死亡リスクとの関連を 10 年間の前向きコホート研究にて検討しました。



その結果、Eysenck Personality Questionnaire-Revised (EPQ-R)は、「E尺度 (extraversion); 外向性傾向」「N尺度 (neuroticism); 神経症傾向」「P尺度 (psychoticism); 非協調性」「L尺度 (lie); 社会的望ましさ」の4つの下位尺度が循環器疾患死亡リスクに及ぼす影響は認められませんでした。また、ベースラインから3年以内の死亡例を除外した解析を行いました。結果は変化しませんでした。さらに、エンドポイントを虚血性心疾患、脳血管疾患とした場合でも、パーソナリティと各死亡リスクとの関連は示されませんでした。

研究のデータについて

ベースライン調査：1990年6月から8月に、宮城県内14町村在住の40-64歳の全ての男女約5万2千人を対象に、生活習慣とパーソナリティに関する自己記入式アンケートを配布し、4万1442人から有効回答を得ました。回答率は80%です。

生活習慣に関する調査内容は、病気の既往歴と家族歴、体型、健診受診、女性の出産歴などに関することなどの健康状態、運動習慣、喫煙、飲酒、食事などの生活習慣、職業、婚姻状況、学歴、健康保険加入状況などの社会的な状況から構成されています。

追跡調査：ベースライン調査に答えていただいた方のうち、EPQ-Rの回答に欠損がある者8618人、EPQ-Rの回答の全てを「はい」または「いいえ」とした者54人、代理回答者2493人を分析の対象から外しました。また、ベースライン時における心臓病の既往者348人、脳卒中の既往者162人を除外しました。ベースライン調査時から1997年12月31日までの追跡調査で約2万9767人の対象者のうち90人の虚血性心疾患死亡者及び131人の脳血管疾患死亡者が確認されました。虚血性心疾患死亡者と脳血管疾患死亡者をあわせた221人を循環器疾患死亡者としてしました。

パーソナリティ指標 (EPQ-R)

EPQ-R の質問は、48 項目からなり、「はい」「いいえ」で回答するものです。EPQ-R は、「E 尺度 (extraversion); 外向性傾向」「N 尺度 (neuroticism); 神経症傾向」「P 尺度 (psychoticism); 非協調性」「L 尺度 (lie); 虚構性」の 4 つの下位尺度で構成され、各下位尺度は 0-12 点の範囲でスコア化されます。EPQ-R の信頼性及び妥当性はすでに確認されています。

研究の特徴と限界について

本研究において、EPQ-R の 4 つの下位尺度が循環器死亡リスクに及ぼす影響は認められませんでした。本研究の限界として、循環器疾患死亡者数が少ないため、更なる追跡調査を行うことでより明確な結果を見出すことが出来ると考えられます。また、本研究では、循環器疾患死亡をエンドポイントとした解析を行いました。したがって、循環器疾患発症に関する解析が出来ませんでした。
